

第10回 安息日の主イエス

(2:23~3:6)

《アウトライン》

1. 安息日を巡る批判 (2:23-24)
2. 安息日の主イエス (2:25-28)
3. 会堂での挑戦 (3:1-2)
4. 権威の証明 (3:3-5)
5. 結末 (3:6)

《結論》 自分の中のパリサイ人

《聖書研究メモ》

2:23：安息日について

- ・ 出エジプト記 20:8-11

安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。それは【主】が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。

- ・ 安息日のルールは、「十戒」の中でも特に重要なものである。
- ・ 紀元1世紀のユダヤ教では、メシアが来る時には、イスラエル民族全体が神に立ち返り、その結果安息日をしっかりと守るようになると考えられていた。

2:23：弟子たちの行動について

- ・ 申命記 23:24-25

隣人のぶどう畑に入ったとき、あなたは思う存分、満ち足りるまでぶどうを食べてもよいが、あなたのかごに入れてはならない。隣人の麦畑の中に入ったとき、あなたは穂を手で摘んでもよい。しかし、隣人の麦畑で鎌を使ってはならない。

2:24：パリサイ人たちの批判

- ・ 出エジプト記 34:21

あなたは六日間は働き、七日目には休まなければならない。耕作の時にも刈り入れの時にも、休まなければならない。

- ・ 口伝律法における理解

穂を摘むこと→刈り入れ、殻をもむこと→脱穀、もみ殻を吹いて飛ばす→選別作業、
食べる→貯蔵作業

2:25-26：ダビデの逸話

- ・ サムエル記第一 21:1-6 参照
- ・ 解説は高坂聖書フォーラム「サムエル記上」第33回目を参照
- ・ 「大祭司エブヤタル」の解説は「Q&A：アヒメレクか、エブヤタルか？」(2019/6/22)参照